

SME日本支部 創立55周年を祝して



柳下福蔵
沼津高専名誉教授
(前校長)

SME 東京支部の思い出

30 年程以前のある夕刻、University of Wisconsin-Madison の Prof. DeVries の推薦で SME 会員になっていた私のもとへ SME 東京支部長の東京都立大学教授・古川勇二先生から突然電話がかかってきました。「SME 東京支部のメンバーになって若手会員の増加活動に協力いただきたい・・・」という内容と記憶しています。この時はじめて SME 東京支部の存在を知った私でしたが、月例会・役員会や金型箱根荘でのプログラム委員会を通して大学の諸先生方や企業技術者としてご活躍の諸先輩方と親しく交流させていただいたことがき、そのことが沼津高専における 40 余年の教育研究活動に有益に反映でき感謝の念に堪えません。

若手会員の増加活動はさほど成果を挙げることはできませんでしたが、(社)精密工学会静岡県東部地区精密技術研究会と共催で 1991 年から 10 年間ほど毎年 8 月に沼津近郊で開催した特別講演会、特別見学会は SME 東京支部の会員の皆様に多少貢献できたものと思っております。SME 日本支部の益々の発展を祈念申し上げます。



神谷 知徳

創立55周年を祝う

SME 日本支部創立 55 周年を迎えられ、心よりお祝い申し上げます。

私事、SME 東京支部創立 45 周年に初めて参加させていただき、以来、次の 50 周年にはセクレタリーとしてこれを迎えるという荣誉に浴した者であります。

このたび 55 周年を無事迎えられたことは、OB の私にとりまして、この上ない慶びであり、これもひとえに、常日頃、支部発展のためにご尽力されている関係企業の方々、及び事務局の皆様の大変なご努力の賜物と、あらためて敬意を表させていただくところであります。

SME 日本支部の大きな役割の一つは、一人でも多く、世界的に活躍できる製造技術者の育成に尽力を投じることであると確信いたしております。

この役割の成果が、次の 60 周年に結びついてゆくことを切に望んで止みません。



水上 悦郎

元 東芝機械

SME との出会い

本社、輸出部へ転勤となり、北米担当の一員となった私は猛烈な忙しさの中にありました。当時、工作機械事業部は全盛期で、輸出も好調でした。初の海外出張はロサンゼルスでのWESTEC SHOWで駐在員の先輩方とブースの設営から撤収まで行ないました。まだ20代後半で(1980～2年)3回担当し、本店のあるシカゴ経由で帰国しました。会場で見かけたSMEの旧ロゴが何のマークかわかりませんでしたが、主催者と知ったのも恥ずかしながら20年後となります。沼津工場に戻った私は'96年、垣花氏ら4氏のCMfGE合格ニュースを社内報で知りました。これがSMEとの再会となり、後に続くことになります。

月例会に参加して15年と常連になってきました。在職中より多くの先進企業などを見せて頂きました。バリエーションが多彩で大変、有意義です。異業種などの知らない分野も多く、刺激を受けます。業界地図(産業界の動向)も見えてくる様になり、楽しみです。



木村 信一

第26代支部長

SME日本支部月例会 歳時記

月例会の年間プログラムは、当時は恒例により異業種の会員が箱根の保養荘に集まり、委員長を中心に各自の提案を討議して決めていました。1989年7月の講演会は「航空機の最近の開発状況」ということになり、会場に機械振興会館をとり、講師のDr.H.吉原氏の快諾もとれました。同氏はGeneral Dynamics社(サンディエゴ)からBoeing社(シアトル)の研究所長を歴任され、当時は在日米国海軍科学技術局に派遣されていました。講演は第3代の支部長の清水長一氏(YHP常務)が通訳し、OHPを使い、航空力学の見地から翼や胴体の進歩で燃費改善、騒音対策が進んだことが話されました。旅客機はBoeing社の767、Airbus社の340、戦闘機ではAdvanced Fighters、F-14、F-15、F-16やOspreyのTilt Rotorの装備の話しにも及びました。吉原氏は電子回路にも詳しく、前月には東大でスーパーコンピュータの学術講演もしていました。

この日は、講演会が終わってから特別にビアパーティを催し、木下直治先生の余興もあって、和やかな会で終わりました。講演は研究者の学術発表の場としても貴重な存在と思っています。

SME日本支部 創立55周年を祝して



高山 一成
高山商事(株)
会長

SME 日本支部創立55周年に寄せて

SME 日本支部創立55周年をお祝い申し上げます。歴代支部長様、役員様方のご努力に敬意を捧げたいと存じます。

私自身は1970年代にSME誌を見て支部が日本にもあることを知り入会しました。そして1987年日本支部25周年の時に支部長をさせて頂きました。その時には米国本部会長のRiley Jr.氏の訪日を頂きゴルフをご一緒させて頂いたことを思い出します。私自身はDearborn, MIの本部を二度訪れました。二度目の時は弊社の現社長と共に訪問致しました。

ご承知のように当SME日本支部は本年、東京支部から日本支部へ名称を変更致しました。東京支部を名乗る以前は日本支部を称しておりましたが、当時本部からの指示により東京支部となった経緯を覚えております。

顧みれば支部を維持してゆくことは会員と役員様方が実に膨大な思索と方策、知恵と努力を傾注されたれたことの賜物と思います。そして本年祝賀の会を催されることは私どもにとって誠に幸いなことと思います。茲に感謝申し上げ日本支部の更なる発展を祈念すると共に各位のご健勝と益々のご活躍を祈念いたします。



榊田 正美

世の中の変化の潮流を読み解き、モノづくりを元気に！

変化の激しい情報社会にあって、多くの人が「なかなか先を見通せない時代になった」とおっしゃる。これに付和雷同して、筆者自身も納得しているが、本当にそうだろうか？ 世の潮流についての不勉強を棚に上げて安直に自分に言い訳をしていないだろうか。

二一バーは「変えるべきものは変えろ！」という。また「流れる水は腐らない」ことは誰しも知るところ。ダーウィンの「変化に対応した種だけが現在も生き続けている」ことも自明の理。このように変化への対応は必然であるが、一方で人間の本性は、痛みを伴う不安な改革を極力嫌い、現状に甘んじる保守的な行動を採りがちだ。しかし時勢の変化に打つ手をこまねいていては、衰退の一途をたどることは必定である。市場の変化を看過した経営者、求められるスキルの変化に対応できない労働者もしかり。

AI時代の変化に応じてモノづくりも変えてゆかねば、生き残れない。世の中の変化をより深く読み解く努力を続け、個々人がエビやカニのごとく古い甲羅を捨てて脱皮し続けようではないか。

かくいう筆者も、潮流に乗り遅れまいとものがき続けている。

SME日本支部 創立55周年を祝して



谷口 修
(公財)しまね
産業振興財団

SME の活動に謝意

私は日立入社後、汎用モータの電磁鋼板鉄心の抜型の設計に関わり、順送金型を学ぶため1970年「訪米プレス自動化技術調査団」に参加し、デトロイトのフォードウッドヘブン工場や周辺の金型工場など回りました。現地には金型設計専門学校あり、ムーアの治具研削盤が並ぶ精密工作室や高速プレス加工現場など見て彼我の差を知り、このハイレベルを目標にすべきと念じました。この地においてSMEが発足し世界中に優れた生産技術者を育てる活動が起きたのは意義深く有難いことです。1994年IMTSツアーでSME本部を訪ね、充実した施設や附属図書館など見てさすがと感心しました。私はプログラム委員として関わり、幾多の例会・セミナーで学び良い仲間を得て幸運でした。今後日本は人口減少、高齢化などで深刻な問題を抱えており、この先どう進むべきか厳しいですが、地方創成に活力の起爆剤を求めるべく、私はしまねの国の支援に注力しております。日頃のSMEのご支援・活動は有り難いです。今後はSMEの国際的ネットワーク活用で情報交換進めましょう。

SME・ME誌の思い出

榑 猛史

ミノルター一眼レフカメラ生産技術担当の私は入社10年目に3週間訪米自動組立視察団員として米国東海岸からインガソル社・コダック社等々見学後デトロイトコボホールSME主催機械展示会で感激、その場でSMEに入会した。祖父が米在住で英語好きな私は機関誌のManufacturing Engineersをよく読み、カタログ請求し、米国資格CMfgTが創始期特典で応募可能で取得、努力し即CMfgEにUP、米資格があれば同じカナダ国家資格は応募可で、会社担当重役の推薦状を得て議会から認証状を得た。ME誌は若い技術者の会社での悩みを解消、仕事上では自動車工業での画期的な組立方式記事から私はカメラブロック組立設計を思い付き高品位なX群カメラ組立で実現した。関東出向後東京支部で資格話をするや資格試験を日本で実施する事になり準備・実施に参画、後本部要請で事務局から資格試験問題作成会合に出席し他国支部参加者等とSME蔵書から出題作業を行い良い思い出となった。